



平成16年9月 マンスリー レポート

集計企業数 60 社

売上高・前年同月比

	全 店			既 存 店	
	売上高	構成比(前月)	前年同月比(前月)	売上高	前年同月比(前月)
総 額	34,009,476 万円	100.0%	102.4%(102.0%)	31,795,272 万円	98.2%(97.4%)
食 料 品	27,645,684 万円	81.3%(79.5%)	102.9%(102.9%)	26,078,096 万円	98.7%(98.6%)
農 産	4,136,895 万円	12.2%(11.9%)	102.3%(100.3%)	3,907,993 万円	98.0%(96.0%)
水 産	3,124,136 万円	9.2%(9.0%)	99.5%(98.5%)	2,943,494 万円	95.2%(94.1%)
畜 産	3,097,506 万円	9.1%(8.8%)	103.6%(102.0%)	2,915,490 万円	99.0%(97.4%)
惣 菜	2,605,364 万円	7.7%(7.9%)	104.6%(104.0%)	2,442,303 万円	99.8%(99.2%)
日配食品	6,575,947 万円	19.3%(18.7%)	102.5%(104.1%)	6,200,822 万円	98.4%(99.7%)
加工食品	8,105,836 万円	23.8%(24.4%)	104.2%(105.0%)	7,667,994 万円	100.3%(101.0%)
生活関連	2,795,535 万円	8.2%(8.2%)	98.7%(95.8%)	2,613,678 万円	95.1%(92.1%)
衣 料 品	1,614,282 万円	4.7%(5.1%)	96.5%(94.8%)	1,477,452 万円	94.5%(90.7%)
そ の 他	1,953,975 万円	5.7%(6.0%)	105.1%(105.7%)	1,626,046 万円	99.0%(95.2%)

数 値

全店総売上高	34,009,476 万円	店 舗 数	3,304 店舗
総売場面積	5,697,560.4 m ²	総従業員数	166,396 人

店舗平均月商	10,293.4 万円	平均客単価	1,831.2 円
月間m ² 売上(前月)	6.0 万円(6.3 万円)	平均店舗面積	1724.4 m ²
月間坪売上(前月)	19.7 万円(21.0 万円)	パート比率(前月)	74.3%(74.6%)

注) 総従業員数...パート・アルバイト数は、8時間換算しています

全体概況

- ・ 前半は比較的天候に恵まれたものの、後半に雨が続いたため売上は前年に届かなかった
- ・ 度重なる台風の上陸が、売上へ多大な影響を与えた。また、農作物、水産物などへも長期にわたり影響を及ぼすことが懸念されている
- ・ 地震、台風が多かったこともあり、懐中電灯、ろうそく、非常食などの防災用品の売上が好調に推移した
- ・ 日々の気温の変化が非常に大きく、夏物の売り尽くしと、秋物の展開に各社苦労した

商品動向

農産

- ・ 農産は、台風などによる天候不順が相場に大きく影響を及ぼし、出荷も不安定になり欠品が相次いでいる
- ・ 野菜においては、トマト、ナス、大根などを中心に総じて相場が高く、値ごろ感が出せない状況となっている
- ・ 果物は、ぶどう、柿の出荷が早まったこともあり、概ね好調な出足となる。一方台風の影響で、りんごは相場が高騰し低調であった

水産

- ・ 水産は、台風の影響により水揚げが非常に不安定となり、高値が続いている。最近の魚離れも重なり、全体としても苦しい状況が続いている
- ・ サンマは入荷も安定しており、先月に続き売上点数は伸びている。しかし、安値により単価が下落し、売上金額としては昨年並みとなった

畜産

- ・ 畜産は、豚肉の売上は落ち着いてきたが、牛肉、鶏肉ともに売上が回復しており、BSE、鳥インフルエンザ以前の状態に戻りつつある
- ・ 豚肉、国産牛肉の相場高により、利益面では依然厳しい状況が続いている

惣菜

- ・ 惣菜は、季節のおこわ、炊き込み御飯など、米飯が引き続き好調を維持している
- ・ 特に煮物などの和惣菜において、ばら売りや少量目の商品が売上が伸びている

日配・加工食品

- ・ 日配食品は、特に前半暑い日が続いたことから、練製品、おでん種などの和日配は今ひとつであった
- ・ 野菜の相場が上がってくるにつれ、漬物の売上が上昇している
- ・ 気温は平年を上回ったが、先月に比べ体感温度が大分下がったため、アイスなどの涼味商材の動きは鈍かった
- ・ 加工食品は、去年の残暑と比べ体感気温が低いことから、飲料などが伸びを欠いた
- ・ アルコールは、焼酎が引き続き好調を維持している。発泡酒はビール(ドラフトワン)に押され、伸び悩んだ

その他

- ～秋物商材の動向について
- ・ 特に月の後半に雨が多かったことが影響して、全体的な動きは今ひとつであった
- ・ 果物は、出足は好調であったものの、台風の影響から相場が高騰し、品不足も発生するなどし、今後の売上が懸念されている
- ・ さんま、秋鮭は出荷も安定し値ごろ感もあり、売上点数は好調であったが、単価の下落が著しく、売上金額は伸びなかった
- ・ マツタケは売上の悪かった昨年と同じような動向になっている。特に量目の多い、高単価商品の売れ行きが非常に鈍かった
- ・ 8月からの度重なる台風の襲来が客足、出荷状況など、秋物商材の売上に大きく影響を及ぼした

～お彼岸の売上動向について

- ・ 少量化と単価の下落は相変わらずであるが、全体的な動向としてはほぼ昨年並みの売上を確保した
- ・ 敬老の日、秋分の日、週末とつながったため、売上に山が無く1週間にわたり売上が分散した
- ・ 各社とも、惣菜部門においてインスタアのおはぎを拡販した。そのため日配部門のおはぎの売上は減少したが、おはぎ全体の売上は伸びている
- ・ 全体として単価減・点数増が顕著にでている。各社ばら売りなどの拡販により、単価増よりも、点数増に力を入れている
- ・ カレンダーマーケットだからごちそう、という感覚が徐々になくなっている。飾りとして購入されている方が多く見られる

～新米の動向について

- ・ 今年は天候に恵まれたことから例年より出荷も早く、相場も安値であった
- ・ 冷夏の昨年と比べ、価格が非常に安いため、数量は昨年を10～20%上回っているが、単価が20%ほど落ちているため、売上は昨年並みとなっている
- ・ 物量が豊富で値ごろ感がだせるが、競合店との価格競争に巻き込まれ利益が出ない、といった声もある
- ・ 昨年に比べ価格が非常に安いため、今後の売上確保を不安視する声が多い